

主催 新潟大学人文学部研究プロジェクト「〈声〉とテキスト論」

ふみつき みづき 詩人たち

三角みづ紀（詩人）と小野
田賢三（現代アート作家）
による朗読と映像の共演。
そして二人を迎えて、新潟
在住の詩人や音楽家たちが
さまざまな朗読パフォー
マンスを繰り広げます。



参加詩人（予定）

三角みづ紀
清水マサ
鈴木良一
館路子
齋藤健一
長澤忍
yuuko
MORRAN

日時：7月26日（土）
午後2時—4時30分

場所：新潟大学駅南キャンパス
「ときめいと」

新潟市中央区笹口1-1-1

新潟駅南口プラーク1の2階
（ジュンク堂の上）

入場無料 申込不要 定員100名・先着順

※予約は必要ありません。直接会場へお越し下さい。

問い合わせ先 新潟大学人文学部（鈴木）
TEL 025-262-7254 メール eventjinbun@yahoo.co.jp

朗読 映像 音楽 パフォーマンス



三角みづ紀 (みすみ みづき)

1981年4月18日生まれ。鹿児島出身。12歳より詩作をはじめ。18歳で上京、東京造形大学造形学部視覚伝達学科卒業。20歳の冬より1年半あまりの奄美大島での病気療養中に、現代詩手帖に投稿をはじめ、22歳で第42回現代詩手帖賞を受賞。処女詩集「オウバアキル」で第10回中原中也賞、第2詩集「カナシヤル」で第18回歴程新鋭賞、2006年度南日本文学賞を受賞。

2008年5月に第三詩集「錯覚しなければ」を刊行。秋より音楽などのステージ活動をはじめ。2009年6月に講談社より処女小説「骨、家へかえる」を刊行。

2010年9月に三角みづ紀ユニットの初アルバム、「悪いことしたでしょうか」をペルメージレコードより発表。12月には遠藤ミチロウ還暦記念トリビュートアルバム、「青鬼赤鬼」(北極バクテリア)に「早すぎた父親」で参加。第四詩集「はこいり」を思潮社より刊行。

2011年9月、三角みづ紀ユニットセカンドアルバム「幻滅した」を発表。2012年5〜7月、西日本新聞にて50回連載随筆、「わたしの町ではない町で」を発表。8月、欧州文化首都マリボル関連プログラム、国際詩祭『Days of Poetry and Wine』に招致される。

2013年5月、連詩集「悪母島の魔術師」(思潮社)を刊行。第55回ヴェネツィアビエンナーレ日本館(代表作家・田中功起)によるプロジェクト『a poem written by 5 poets at once』に参加。ジャンルを超え、あらゆる表現を「現代詩」として発信し続けている。

【本】

「オウバアキル」2003. 思潮社

「カナシヤル」2006. 思潮社

「錯覚しなければ」2008. 思潮社

「眩暈」(2008. 書道家、川尾朋子との二人誌)

「骨、家へかえる」2009. 講談社

「はこいり」2010. 思潮社

【映画監督映像作品】

「東京心中」2006 (ZOKEI 賞)

「窓際の白い花が一刻もはやく枯れますように！」
2008

※三角みづ紀オフィシャル Web サイトより転載
<http://misumimizuki.com/>

(『隣人のいない部屋』より)

墓の島へ
船から降りると
教会と墓のならぶ島
鳥のささやきと
清潔なひかりと
おごそかに名前が
刻まれて
整列して
これ以上うつくしいものは
どこにもないのだ
血のかよっていない墓の島
翌朝、
海猫の声で目覚めた
けたたましい海猫だ
時折ちがう声もまじった
呼ばれているだろう
翌朝、
白と黄色の花を買って
墓の島へ向かう
これ以上うつくしいものを
知ることはないから
悪事をはたらいた

ふみつき みづき 詩人たち

出演／三角みづ紀、小野田賢三、清水マサ、鈴木良一、
館路子、齋藤健一、長澤忍、yuuko、MORRAN

■日時：7月26日(土) 14:00-16:30

■場所：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」
新潟駅南口 プラカ1の2階
(ジュンク堂の上)

■主催 新潟大学人文学部研究プロジェクト
「〈声〉とテキスト論」

入場無料

※予約の必要はありません。直接会場へお越し下さい。
定員 100名・先着順となります。

問い合わせ先 新潟大学人文学部(鈴木)

TEL 025-262-7254

メール eventjinbun@yahoo.co.jp

清水マサ

17歳から詩を書き始める。詩人会議、日本現代詩人会、新潟県現代詩人会、市島三千雄を語り継ぐ会、各会員。2011年第39回壺井繁治賞受賞。

鈴木良一

1947年生まれ。北川透個人誌「あんかるわ」投稿。詩誌「花嫁」等編集発行後、現在詩誌「野の草など」主宰、詩誌目録「紙魚」編集発行人、「北方文学」同人。詩集『あやかしの野師』他。

館路子

1947年生まれ。三条市在住。新潟県現代詩人会、日本現代詩人会所属、北方文学同人。詩集に『館路子拾遺詩集〈アダム氏は不意の疾走を〉』『眠り流しの眷族』『螢、探して』年間に2、3編の詩作という遅筆のタイプ。

20代の半ば「無国籍の詩」と批判を受け、それからおよそ10年間は文章が書けなくなってしまった。父の死をきっかけに『眠り流しの眷

族』を、平成16年7月13日の新潟福島豪雨での罹災を機に『螢、探して』を出版。『螢、探して』は日経、朝日、読売の書評欄にて書評を得た。

齋藤健一

1949年新潟市生まれ。間野捷魯、細川基らと詩誌「一樹」同人。個人誌誌「穀物」編集発行を経て現在詩誌「乾河」編集発行。詩集『海岸の草』『航海燈』『實體風貌』。

長澤忍

1964年生まれ。1990年より詩作を開始し、1993年に処女詩集『chink』を刊行する。1994年より朗読活動もはじめる。1995年、ヒロセ煌・安田弘之らと詩誌「Zacro」を創刊し、詩のヴィジュアル化を図る。1997年、詩集『レントゲンX』を刊行する。和合亮一・大下さなえらと詩誌「ウルトラ」を創刊。1998年、「詩学」新人。以降、ラジオ番組パーソナリティ、詩の映像化、詩のワークショップ

ブ、講演会など活動。2001年、ヤリタミサコらと詩のメールマガジン「さがな。」を配信し、現代詩とネット詩の融を図る。現在に至るまで、記録(消印・履歴)詩人として画像・映像・動画生活を続けている。

yuuko

2011年、詩集『欠けたヴィーナス』で第7回新潟出版文化賞優秀賞を受賞。

MORRAN (モラン)

音楽家・山田正史のソロユニット。大学時代から10年以上、作詞作曲、自宅録音で作品を多く創作。ロック、フォーク、電子音楽、チンドン屋、弦楽器との合奏、表現形態は多様、多彩。今回は詩に主眼と重心を置いて演奏する。

小野田賢三

現代アート作家。2008年「PARKHAUS展」(クンストハレデュッセルドルフ)、「パリ国際現代詩ビエンナーレ2009」などに参加。